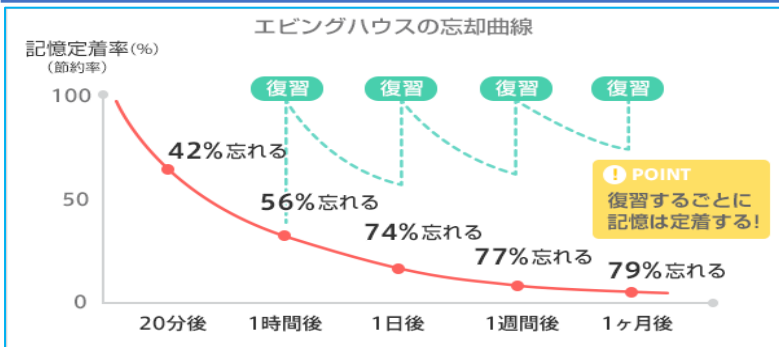


家庭学習応援だより

第3号

間もなく1学期が終わろうとしています。「家庭学習応援だより」を発行して2カ月が経ちますが、お子様の家庭での学習や保護者のみなさまの関わり方により意味で変化が見られるようになってきたでしょうか。

よく、学習(勉強)はスポーツや運動とは違って、成果となって表れるには時間がかかると言われます。それは、こんな理由が1つあります。下図をご覧ください。人間の脳は長い期間、記憶を維持するのが苦手です。そのため、学習したことを定期的に復習としてチェックしてあげないと、忘れていってしまいます。また、その間にも授業などで新しく習うことがいくつも出てきますし、生活をしている中で様々な情報が頭の中に入ってきます。学習(勉強)を始めても、すぐに成果となって表れない理由が、おわかりいただけただしょうか。7月21日から始まる夏休みを使って、下学年や1学期の学習を振り返ってみてください。「1学期に学校で勉強したはずでしょう!もう忘れちゃったの?!授業中、何してたの(怒)!!」と怒らず、「この忘れっぽさは、ぜったい、わたし似じゃない。」くらいの心の余裕が、長い夏休みを心穏やかに過ごすコツです。



コミュニケーションボード

今月号は、各担任から1学期の学習の様子と宿題や家庭での学習について聞いてみました。個人ではなく、全体の傾向や印象ですので、率直にありのままをお伝えします。「これはうちの子には当てはまらないな」というものもあるかもしれませんが、「普段の学級は、こんな感じなのかな」と受け止めていただければと思います。

菅谷教諭(第1学年担任)

1学期の子供たちは、学習のきまりを覚えることができました。ひらがなを読んだり書いたり、数の数え方を覚えたり、数を書いたりできるようになりました。生活科では、観察記録を書くことができました。ただ、45分間しっかり集中するのは難しいようです。集中できる時間を少しずつ伸ばしていけると良いです。

宿題は、毎日ほぼ全員が提出できています。中にはもっとやりたいという意欲的な児童もあり、今後は自主学習に取り組めるよう声かけしていきたいと思います。また、読書が好きな子が多く、朝の読書タイムでは自分の好きな本を選んで読んでいます。

重藤教諭(第3学年担任)

1学期の学習の様子は、学習に取り組む姿勢がよくなってきたと思います。また、基礎的、基本的な学力が向上しつつあります。理科や体育が好きな児童が多く、意欲的です。ただ、課題ややるべきことが終わった後に、「次は何をすればいいですか?」と指示を待つ傾向があり、受け身の姿勢が見られます。また、教科書やノートなどの学習用具がそろわないこともあるので、お家の方のフォローをお願いします。

宿題はよくやってくる児童が多いので、夏休みは1学期に配布したドリルやワークシート、カラーテストの解きなおなどをしてくれると良いです。また、作品展などに積極的に応募し、学習の意欲付けになれば、と思っています。

宮内教諭(第6学年担任)

1学期の学習を見ていると、興味や関心があるものには、とても集中して取り組むことができていました。特に、調べたものをもとめるような学習が好きな児童が多く、主体的に学習していました。また、学年の初めのころよりも友達と学び合う姿勢がよくなっています。ただ、深い思考を伴う課題に対して、じっくり取り組むことが苦手なようで、もう少し粘り強さがほしいところです。

宿題は忘れずにやってくる児童が多いです。また、月例テストやテストが近くなると意欲的に学習に励む姿が見られます。朝から眠たそうにしている子が多く、夜遅くまで起きている話をよく聞きます。夏休みを控え、家庭での生活を工夫できるとよいです。

夏休みの宿題は、親にとっても大変？



昨年度の夏休みは、新型コロナウイルス感染拡大のため、2カ月以上の休校期間を取り戻すべく、10日程度の短い夏休みでした。そのため、学校からの宿題は少なかったと思います。今年度は、7月21日から8月31日まで、例年通りの夏休みの期間があります。昨年は少なかった作品募集の案内も、今年は学校にたくさん届いています。夏休みのしおりはいずれ配られるかと思いますが、夏休みの宿題は昨年度よりも出されるかもしれません。

そうなると大変なのは、子供たちだけではありません。毎年、8月終わりごろに放送される「サザエさん」では、カツオ君の夏休みの宿題のやり残しが夏休み最終日に発覚し、波平さんとマスオさんが必死に手伝うというお決まりの回が放送されます。そこまでではなくても、学校から出る夏休みの宿題は、家族にとってやはり大変なものかもしれません。昨今では、それを宿題代行としてインターネットを通して客を募ったり、宿題の完成品をフリマアプリで販売したりするニュースを見かけることがあります。こうなってしまうのは本末転倒ですよ。

ある調査では、程度にもよるでしょうが、「**子供の夏休みの宿題を手伝う親**」は、**58.4%**であり、また、「**実際には手伝わないが、子供と夏休みの宿題の進め方を相談する親**」は、**73.6%**だそうです。

前号でも述べましたが、先回りして助けたい気持ちをぐっとこらえて、「自分の力でどこまでできるかな？」と信じて見守ってあげてほしいと思います。とはいえ、子供から「宿題、手伝って」と言われたのに、全くかけあわないのもどうかと思います。アイデアを出したり、少しでも手伝ったりするなど、コミュニケーションを大事にしつつ、適度に関わるのをおすすめします。ただし、「親がすべて主導権を握る」のではなく、いっしょにヒントを探しに図書館や博物館へ連れていくような「きっかけづくり」くらいが適度な関わりといえるのではないのでしょうか。

大事なのは、子供が「自分の力でやりきった！」という達成感もてるサポートをしてあげることです。子供自身に「ズルしちゃったなあ」というマイナスの自覚が出る要因は、減らすようにしてほしいです。神戸大学と同志社大学の研究チームによる発表では、「**自己決定**により進路を決定した者は、自らの判断で努力することで目的を達成する可能性が高くなり、また成果に対しても責任と誇りを持ちやすくなることから、達成感や自尊心により幸福感が高まることにつながる」ということがわかっています。つまり、誰かに決められたことではなく、自分で決める「**自己決定**」が、人生においてより大きな幸福度につながっていくのです。また、「自分で決めた」という経験を重ねた結果、「自分はできる」という**自信**に結びつき、**自己肯定感**も高まると考えられています。

おわりに

夏休みは親も、「今日ぐらいはいいかな。」と、ついつい夜更かしや寝坊を見て見ぬふりをしてしまいがちです。夏休みが進んでくるとお子様の生活リズムが崩れてくるかもしれません。大人は生理的なリズムが崩れても自分をコントロールする力(自制心)によってカバーできますが、自制心が育っていない子供は、生活が乱れてしまいます。「寝る」「起きる」「食事」「排泄」の4つの時間を固定することがポイントです。子供の生活リズムは元に戻すのに1週間以上かかると言われます。一度崩れてしまった生活リズムは、子供だけで取り戻すのは難しいので、お家の人がフォローしてあげてほしいと思います。

最後に、今年度は夏休み中の「学びの広場」はございません。